

平成21年度
第2回新川和江賞
～未来をひらく詩のコンクール～

表彰式・詩の朗読

と き:平成22年2月14日(日)

ところ:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

平成22年の輝かしい年に新川先生をお迎えして『第2回 新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール』表彰式を開催するにあたりまして、主催者としてひとことごあいさつ申し上げます。

この詩のコンクールは、新川先生の深いご理解とご支援をいただき、昨年から『新川和江賞』として創設したものであります。

私は、心の動きを表現する『詩』は、創造力を豊かにし、積極的に未来に向かう気持ちや、健やかな心を培うものと考えております。

今年も市内の在学、在住の小・中・高校生を対象に募集をいたしましたところ、昨年より2.7倍、1,629点もの多くの作品の応募をいただきました。

これもひとえに関係者の皆様の深いご理解と詩を愛する気持ちの賜と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品はいずれも力作ぞろいで、選考には大変難航したと伺っております。まずは、受賞されました皆様には心よりお祝い申し上げます。

同時に、今後ますます詩に関心を持たれ、心に残るような作品を生み出していかれますことを期待しております。

なお、今回は残念ながら選にもれた方々も大勢いらっしゃいますが、次回は、受賞されることを願っております。

最後に、来年度の『新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール』にも数多くの作品が寄せられることをお願いいたしまして、主催者からのあいさつとさせていただきます。

平成22年2月14日

結城市長 小西 栄造

この星の上で

未来をひらく詩のコンクール・新川和江賞の第二回を、ここにめでたく迎えることが出来ました。応募作品数が昨年の二倍半を上回る盛況で、書かれた皆様のご熱意が、あつく伝わってまいりました。ご指導とご協力を賜りました各学校の先生方に、関係者一同、心より感謝申し上げます。

詩は、書くことを強制されると、かえって詩を嫌う結果になりますので、けっして無理強いをなさらぬようにと、くれぐれもお願いしてありましたせいか、素直にはつらつと心を開いて見せてくださっている作品が多く、読ませて頂きながら、私も、たのしく心がはずんでくるのでした。

詩は、上手下手は二の次でありまして、大切なのは、題材と出会った時の喜びや、今まで気づかずにいたことを発見した驚きを、飾らない言葉で、簡潔に、ときに大胆に表現するところにございます。ご家族や親友、野の花たちや小さな生きものたち、そして大自然、大宇宙。すべて詩の題材になるものばかりです。自分の殻の中に小さく閉じこもらずに、深呼吸をして、それらすべてと向い合うと、ああ、自分はひとりぼっちじゃないんだ、こんなに多くのものたちと一緒に、地球というこの星の上で生きているんだ、と心が明るくいきいきとしてきます。目がかがやき出して、いろいろな〈もの〉や〈こと〉が、あざやかに見えるようになります。

パンやごはんのように、詩は、おなかがかくちくなるものではありませんが、貧しく餓えた心、さびしい心を、ゆたかに満たしてくれます。詩を書くことが苦手でしたら、多くの詩人たちや、お友だちの詩を、読むことが好きになるだけで、よいのです。

このコンクールが、小・中・高の皆さんの、未来にはばたくしなやかなつばさ、あたたかく優しい心を育てることに、少しでも役立つことが出来たらと、つねに結城を思いながら、私は願っております。

来年もまた、どうぞよろしく。

平成22年 2月14日

新川和江ニ

次 第

日時 平成22年 2月14日(日)
午後 2時より
場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 27名）

●第1部 表彰式

1 開 会

2 主催者あいさつ

3 来賓あいさつ

4 表 彰

5 作品朗読 新川和江賞 1名
優 秀 賞 7名

●第2部 詩の朗読

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

夏

結城小学校5年

むかいだ ひろや
向田 浩哉

☆優秀賞

おふろ

結城小学校2年

のぐち ゆうと
野口 悠斗

雨（しずくのぼうけん）

絹川小学校3年

わたなべ たくろう
渡辺 拓朗

手の平の小さな命

山川小学校3年

えびさわ まさき
海老澤 匡希

アイボー眼鏡の気持ち

結城中学校3年

うえの みさと
上野 未恵

イス

結城中学校1年

おちあい ひろき
落合 浩暉

夏の色

結城南中学校2年

おおしま りゅうたろう
大島 龍太郎

ふたりめ

結城第二高等学校2年

おがわら みつる
小河原 充

☆優良賞

どうぶつまねっこ 結城小学校2年	あかのま みすき 赤野間 瑞季	化石掘り 結城小学校5年	おだしま だいすけ 小田島 大輔
ツリーハウス 結城小学校5年	こばやし だいき 小林 大樹	やさいのうんどう会 結城小学校2年	のろせ ゆか 野呂瀬 優花
車いすのかずばあ 結城小学校4年	ほそかわ ゆうき 細川 裕貴	生命 城南小学校6年	しまだ みすき 島田 瑞貴
あめ 城南小学校1年	よしだ しおり 吉田 紫想梨	ドリームカート 結城西小学校5年	のざき りな 野崎 里奈
ノコギリクワガタ 城西小学校2年	しのざき ゆあん 篠崎 宥杏	出会って不思議 絹川小学校6年	ながせ ともひろ 長瀬 智弘
おおきくなあれ 上山川小学校2年	ふかや しんじ 深谷 慎治	水たまり 江川北小学校2年	いとう ことか 伊藤 琴佳
ぼくとカブト虫 江川南小学校6年	くろかわ みきや 黒川 幹也	ボールペンの先端の玉 結城中学校3年	かねい しょうた 兼井 章太
鉛筆 結城中学校3年	しのざき しほ 篠崎 志歩	窓の向こう 結城中学校3年	たての ことな 館野 琴菜
恩返し 結城中学校1年	ながつか はるな 永塚 晴奈	芽 結城東中学校1年	くりはら あすか 栗原 明日香
いねむり 結城東中学校1年	ながす のりこ 長須 賀子	がんこな「絆」 結城東中学校2年	ひらた たくや 平田 拓也
どんぐり 結城東中学校1年	むらい ゆか 村井 優花	卵 結城東中学校3年	よこしま さゆり 横嶋 笹百合
空の気持ち 結城南中学校2年	いしくろ れいな 石黒 玲奈	後悔 結城南中学校3年	おおさき しほ 大崎 志帆
虹 結城南中学校3年	たなみ ちひろ 多並 千尋	雨 結城第二高等学校1年	つるみ のりこ 鶴見 典子
アゲハチョウ 結城第二高等学校1年	おちあい はるか 落合 春香		

☆新川和江賞（最優秀賞）受賞作品

夏

結城小学校五年 向田 浩哉

ジージージージー
ギチギチギチギチギチ
ミンミンミンミン
ジジジジジジジ
ホーイ ツクツクホーイ
ツクツクホーイ
せみがいっしょけんめいだ
今・日は晴れて、
青い空も
いっしょけんめいだ

〔評〕

新川和江賞「夏」 向田 浩哉

韓は七年間も土の中にとこや、ちと地上に出て来ても、サ田間ののちしか、あたえられていませぬ。な。な。な。な。のちの限り、せいせい、ばい、鳴くのですね。密にのりするはず、いっしょけんめい鳴くといふは、いっしょけんめい、感動的では。

この詩のすばらしさは、韓に負けず、夏が、青い、緑い、いっしょけんめい晴れて、いっしょけんめい表現して、いっしょけんめい。韓の声をきかされた擬声語、いっしょけんめい、向田の独自の詩の力をきかして、いっしょけんめい、感心しました。

☆優秀賞受賞作品

おふる

結城小学校二年 野口 悠斗

いもうとと入るおふる

プールとカラオケボックスにへんしん

いきこらえとバタ足をして、大こえでうたうんだ

お父さんと入るおふる

おやこつこつむすこにへんしん

かならずお父さんのせ中をあらうんだ

体じゅうをいっしょにはかってメタボかなり

お母さんと入るおふる

あまえんぼうにへんしん

おこそばにあまえてぜんぶあらってもらうんだ

じーじと入るおふる

しっかりものにへんしん

あたまから足までぜんぶ自分であらうんだ

ばーばと入るおふる

ケラケラ、ワハハハマンにへんしん

いっしょにあそんで大わらい

なにをしてあそぶかはひみつだよ

雨(しずくのぼうけん)

緋川小学校三年 渡辺 拓朗

今日の雨は、しとしと雨

しずくは、雲をとびおりて

トタン屋根のすべり台を

すべって、おりる

そこから、地面にバンジージャンプ

地面でお昼ねしていたら

いつのまにか雲の上

今日の雨は、ザーザー雨

しずくは、川にダイビング

メダカさん、こんにちは

ドジョウくん、こんにちは

ながれるプールで遊んでいたら

いつのまにか海に出た

イルカさん、こんにちは

クジラくん、こんにちは

明日の雨は、どんな雨かな

どんなぼうけんするのかな

〔評〕
優秀賞「おふる」 野口 悠斗

とてもゆかいな男の子ゆうとくんが、いっしょにおふるへ入ったような、たのしい気分になる詩です。サービスマン精神がうせいで、ゆうとくんは、家じゅうの人気者なのでしよう。自分を中心に考えないで、相手のことを先に考えてあげられる、こまやかな心づかいの出来る子なのだ、すっかり感心してしまいました。どの連にも、そういうゆうとくんが、いきいきと描き出されています。

〔評〕
優秀賞「雨(しずくのぼうけん)」 渡辺 拓朗

雨のしずくが、さまざまなおふるをしていっているようですが、きれいな絵本のように描き出され、リズムカルにうたい出されています。バンジージャンプは、伸びちみする綱を足首に結びつけて、高い所から飛びおりの遊び。ダイビングは水中にもぐることに。いやな雨も、こんなふうには眺めると、たのしくなりますね。

☆優秀賞受賞作品

手の平の小さな命
 山川小学校三年 海老澤 匡希

かいき日食の夕方に、
 おにわでおさんぽしていたら、
 土から出てきたセミを発見。
 朝夕まちがえてしまったの？
 わたしの手の平にだっこしたけど、
 本当はちょっと泣きそうだけど、
 あなたが羽化するまでは、
 だいじょうぶ。平気だからね。
 サナギの背中がパキパキわれて、
 もぞもぞ少しずつ動くけど、
 痛くないの？苦しくないの？
 早くお空をとびたいの？
 こんなにこんなに小さな体。
 手の平につたわってくる小さな命。
 あなたが七年前に生まれた時、
 わたしはまだ一才で、
 あそんだり、お昼ねをする、
 赤ちゃんでいた事が、とてもふしぎ。
 われた背中がもりあがりはじめて、
 やわらかくてすき通るような白い体。
 体の線と広がらない羽は、
 うすいうすいエメラルドグリーン。
 暗いおげんかんで、手の平で、
 ほわほわぼうって、光ってた。
 あなたがお空へとんでくように、
 わたしもいつか大人になるのね。

〔評〕
 優秀賞「手の平の小さな命」
 海老澤 匡希
 へサナギの背
 中がパキパキわ
 れて、手の平の
 上で蝉が羽化す
 るなんて、めっ
 たにできない体
 験を、まさきさ
 んはなさったの
 ですね。読みな
 がら私も、ドキ
 ドキしてしま
 いました。観察の
 目がゆきとどい
 ていること、手
 の平の上で新し
 いのちがへほ
 あほあほうっ
 て光っていたこ
 と、なんと実感
 にあふれた、う
 つくしい表現で
 あることしょ
 う。

アイボー眼鏡の気持ち
 結城中学校三年 上野 未恵

「おはよう」と彼女は僕をかける
 僕は眼鏡のアイボーです
 どんな想いでつけられた名前なのか
 眼鏡のアイボーにはわかりません
 それでも僕はいいのです
 僕は彼女といっしょに
 沢山な場所に行き 沢山な景色を映して
 幾千と笑いました
 「こんにちは」と彼女は僕と向き合う
 僕は彼女の体の一部です
 眼鏡ふきのクリーナー君
 もっと強く丁寧
 雑だなあ
 正面からの彼女とにらめっこ
 仄々眺めてます
 「こんばんは」と彼女は僕をはずす
 僕は眼鏡のアイボーです
 犬と猫だったら犬に近いと思います きつと
 どこまでも彼女にくっつく忠誠 かな
 こんなアイボーですが
 万華鏡のように毎日を楽しみます
 「おやすみ」

〔評〕
 優秀賞「アイボー眼鏡の気持ち」
 上野 未恵
 愛用の目鏡を
 擬人化してへ僕
 と名乗らせてい
 ます。相棒もアイ
 ボーと片仮名書
 きにすると、現代
 風な味わいが出
 てくるから不忠
 議ですね。犬か猫
 かにたとえるな
 らば、やはり犬で
 しょう。猫は自分
 勝手に行動して、
 忠実なアイボー
 とはなってくれ
 ませんから。
 へ彼女へが眠っ
 ている時、へ僕
 はひとり何を見
 つめているの
 でしょうか。

☆優秀賞受賞作品

イス

結城中学校一年 落合 浩暉

イスです

今日もイスです

あしたもイスです

ずっとイスです

大人がのっても

子供がのっても

お年よりのがのっても

くずれないようにささえるがんばりやなイスです

何年たっても

みんなのことをささえます

イスです

〔評〕

優秀賞「イス」 落合 浩暉

そうですねえ。昨日も今日も、そうして明日からも、ずっとイスは、イスなのです。イスのことを考えれば、毎日学校へ行くことも、いじわるな子にけとはされても、じいことがまんが出来そうです。

イスが、もんくも言わない働き者であることに重点をおいた、たいそう現実的な見方をしておられるところに、かえってユニークな面白がりました。

夏の色

結城南中学校二年 大島 龍太郎

甲虫は つやつやのまっ黒

向日葵は 青空に向かって高く高くき色

入道雲は まっ白

西表島の海は エメラルドグリーン

琉球とかげは メタリックブルー

皆既日食は 白く輝くダイヤモンドリング

ハイビスカスは まっ赤

石垣島のクマノミは オレンジと白

じいちゃんの茄子は ピカピカ紫

夏は 僕らを元気にしてくれる

〔評〕

優秀賞「夏の色」 大島 龍太郎

夏の季節感を、風物のもつそれぞれの色彩で表現した、明るいパステル画のような作品です。西表島の海が出てきたり、琉球とかげがいきなり現れたり、読者の心を遠くへ案内してたのしませてくれる作品ですが、そのような中へ、ごく身近的な「じいちゃんの茄子」を出したところ、なかなかの達人。

この夏、沖縄へ旅行をなさったのですか。

☆優秀賞受賞作品

ふたりめ

結城第二高等学校二年 小河原 充

何でここに居るんだろう
居たいなんて思っていないのに

何で笑っているんだろう
面白いことなんて無かったのに

何でこんなことをしているんだろう
したいなんて思っていないのに

もしかしたら自分のほかに
もう一人“自分”が
居るんじゃないだろうか

ここに居るのが“自分”なら
自分はどこに居るんだろう

〔評〕
優秀賞「ふたりめ」 小河原 充
確かな存在感が得られないのは、小河原さんが、心を浮遊させることが好きな、詩人的感性をお持ちの方だからでしょう。へもしかしたら自分のほかに／もう一人“自分”が／居るんじゃないだろうか」と私も思うことが、しばしばあります。離人症という病気があるそうですけれども、これはそうではなくて、想像力過多によるものでしょう。



優良賞受賞作品

どじぶつまねっこ

結城小学校二年 赤野間 瑞季

おかあさん ねこのまね ニャーオ

エロンねこ

おとうさん らいおんのまね ガオー

ハゲライオン

おにいちゃん 犬のまね ワンワン

やせつぽ犬

わたし うまのまね ヒヒーン

あばねつま

いもつと ぶたのまね フーフー

赤ちゃんぶた

おじいちゃん かえるのまね ゲロゲロ

じらががえる

おばあちゃん ひじじのまね メーメー

まじまじひじじ

化石掘り

結城小学校五年 小田島 大輔

スコップ片手に化石掘り

どんな化石が出るのだろう

ティラノサウルスかな

トリケラトプスかな

それともアンモナイトかな

ティラノサウルスが

生きていた時代

ドシン ドシン

きつと地面がゆれたのだろう

恐竜の戦いも見てみたいな

今

この時代に恐竜が出てきたら

毎日がサバイバル

今の時代に

本当に出てくるというな

☆優良賞受賞作品

ツリーハウス

結城小学校五年 小林 大樹

森の中にある
すてきなツリーハウスに住みたいな
まぶさを開けて 山に向かって
ヤッホー
ヤッホー
と さげびたい
耳をすませば
虫たちの声が聞こえるよ
ほくともおしゃべりしてくねるかな
夜はもつと別世界
空はいつほいの星は
キラキラキラとかがやいて
まるでダイヤモンドみたいだな
手ぎのはせほひよきまわつ
どじからか
ホー
ホー
と フクロウが鳴いている
川のそばには
たくさんのホタルがピカピカと
星みたいに光ってきれい
夜なのにまぶさしいな
街のくらしはせんとせんちがう森の中
こんなツリーハウスに
ほくは住んでみたい

やさいのうんごう会

結城小学校二年 野呂瀬 優花

雨がザーザーふったよ
木よつがきらきら光ったよ
トマト いちじ
赤のパワーがそだったよ
キュウリ アスパラ ピーマン
みどりのパワーもそだったよ
雨がザーザーふったよ
木よつがきらきら光ったよ
ミニトマト トウモロコシ
黄色のパワーもそだったよ
白やむらさきパワーもまけないよ
おうちのほだけは
やさいのうんごう会
きゅうりながらみきしける
雨や木よつのおうえんで
おいしくなだつ
雨がパラパラふったよ
木よつがきらきらかがやいて
色のパワーがそだっている
おいしく おいしくなだってね

☆優良賞受賞作品

車いすのかずばあ

結城小学校四年 細川 裕貴

車いすのかずばあ
右手が動かないのに
すじいんだ
左手だけで字も書けるし、折紙も折れる
車いすのかずばあ
右足が動かないのに
負けないんだ
左足だけで立ってるし、しなを使って歩ける
ぼくは知ってるよ
かずばあがすじいすじい努力したことを
毎日お母さんと病院に行っていたから
かんばれっておっせんしていたんだ
たへん泣いたから今の笑顔があるんだね
やいばいこね
笑顔のかずばあ

生命

城南小学校六年 島田 瑞貴

ぼくは 思う。
どうして宇宙があるのかなって。
どうして地球は丸いのかなって
昔かしのその昔
人間がさるだった時の事、
北京原人だったころ、
自分が生きている所の大きさ、すばらしい
回を考えて生きていたのだらう
どんな遊びをしていたのだらう。
電気もなく、道具も少なかった時代に、
ぼくと同じ年の子供達。
大きな虫はいたのかな。
小さな動物はいたのかな。
友達は大くさんいたのかな。
いろんな話をしてみたい。
いろんな物を見てみたい。
遠い時間の流れの中で、今、ぼくは生きてる。
ちょっとだけ運命ってものが違っていたら
ぼくは大昔の場所で生きていたのかも。
そう考えてみると楽しくなってる。
でも、少し不安かも。
だけども、ねって仲良く生きてるよ。
だって時間は止まる事はない進んでるからいい。

☆優良賞受賞作品

あめ

城南小学校一年 吉田 紫穂梨

あめはなんでもののかな
おそろのかみなりさまが
うわしてなみたき
ながしいるのかな
きこもたなうた
ふためめのおひ
おひまがねのひ
かがやいて
おそろにじがとんだらうな

あめはなんでもののかな
おそろのかみなりさまが
かなしてなうた
なみたなのかな
きこもたなうた
ふためめは
なかなかやまなう
うたなうた
うまらせてうたうたうな

かみなりさま
うたうたうたうたの
なみたなうた
ながうたうた
きこもたなうた
うたうたうた
うたうたうた
うたうたうた
うたうたうた
うたうたうた

ドリームカート

結城西小学校五年 野崎 里奈

エンジンも木のオートマクション
エンジン付きカート
ドリームカート

最初はじきじき 待ちきれない
待っている間
こわい、こわい
辞めたくなった
にげたくなった

ヘルメットをつけられた
きんちようじだ。
さあスタートだ

ハンドルを握りぎって、アクセルをふんだ。
カートが動いた
スピードがどんどん出た。
必死にアクセルをふみつけた。
だんだん楽しくなった
風がヒューヒューと
私の顔にぶつかってきた
ガンバレ、ガンバレって
ささやいているよじだ
必死にアクセルをふみつけた

いつの間にか
3分が過ぎた。
あっと言う間だった。
私は風の音を聞いた
夢の車
ドリームカート

☆優良賞受賞作品

ノギリクワガタ

城西小学校二年 篠崎 春香

あそびになったら 森へ行く
じいさん車にのって 森へ行く
クワガタとに 森へ行く
ほへほ、クワガタだいすきだ
とくにノギリクワガタだいすき
くちやにひかる体がが きれいなひつての小さな目が
なによりのぼんかっしんのは ーしにわかれた 大きなほみ
ほみほ、ギザギザになって
ときがきしも ほみほほみほほほほ
木のぼりだっしほほほほ
足のギザギザをじかって 高くまのほね
たねにたぬい もっしもっしかっしん
くちやに光るほねのほ 小さな目をまらせて 高く 高く
ほへほかっしんほへへ。
ほへほ、クワガタ だいすきなんだ。
しほのとも じきほのとも
ほへほ、森へまっし行くへ。

出会いって不思議

綿川小学校六年 長瀬 智弘

小学校最後の夏。
ほへほ、遠く離れた福井の子と友達になった。
学校に友達はたんなるにるけれど
自分の家から遠いところに
友達ができたのは初めてだ。
最初はちょっときまびしきだ。
何を話していいかわからなかったから。
でも、一緒にいるうちに、
ちやっとなん、ちやっとなん話かできて
知らないうちに仲良くなった。
とってても不思議。
昨日まで全く知らなかった子と
今日は仲良く話している。
出会いって不思議。
世界中に何十億という人がいるのに、
その中で仲良くなれるのは
ほんの少しの人だから。
僕のこの命も、お父さんとお母さんが
出会っていなかったら、いないかもしれない。
お父さんも、そのままだお父さん
お母さんが出会ってなかったら……
そう思ったら、
人の出会いってすごいことだと思う。
だから、家族、友達、先生、
みんなみんな、大切にしようかな。

☆優良賞受賞作品

おおきくなあれ

上山川小学校二年 深谷 慎治

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

水たまり

江川北小学校二年 伊藤 琴佳

水たまりはふしぎだな

空もわたしもうつっての

おなじせがううつっての

もうひとつのせがうもあまるのかな

わたしはそのせがうに行けなうけれど

もし行けたら楽しうだな

水たまりのせがうには空をよぶののかな

みちは水でできてるのかな

おうちも水でできてるのかな

水たまりのポチポチのせがう

たのしいなうな

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

おおきくなあれ

☆優良賞受賞作品

ぼくとカフト虫

江川南小学校六年 黒川 幹也

夏休みが始まる日

ぼくの部屋のカフト虫が

夏服に着かえた

茶色の服を脱ぎ捨てて

真っ黒で、かたいじょうぶな服になった

何年もの間、暗い土の中で

どんな事を考えて

どんな夢を見ていたのかな

ぼくも来年は、中学生

カフト虫とおんなじように

黒い制服に着かえたら

やりたい事がいっぱいある

どんな仲間に出会えるんだろう

一緒に夢を追いかけていな

ボールペンの先端の玉

結城中学校三年 兼井 章太

君たちは知っているかな？

ボールペンの先端には僕がいて

僕がへんげんを踊るよ

インクさんが絵を描いてくれるよ。

僕が踊った軌跡を

インクさんが描いてくれるよ。

友達だっただけなのにさ。

鉛筆くんや定規くん

僕たち筆箱ファミリーなんだ。

でも、僕にはライバルもいる。

それが修正テープさん。

アイツがインクさんの上を走ると

僕の軌跡が消されちゃうんだ。

僕は今日も踊る。

楽しい仲間達と一緒にさ。

☆優良賞受賞作品

鉛筆

結城中学校三年 篠崎 志歩

たった一本の鉛筆でも

さまざまな世界が描ける

どこどこでもあるような一本でも

命をそっと吹き込めば

白いステージ上を

スルスルと踊るだろう

黒の跡を残して…

たった一本の鉛筆でも

自分だけの 自分しか描けない

世界が自分にはあるのだ

窓の向こう

結城中学校三年 館野 琴菜

ガラスのこのガラスの下に

銀の雲が降りそそぐ

手の届かない窓の向こう

君の世界に雨が降る

濡れそぼった冷えた手で

ひとつの花を守ってる

今にも倒れそびなその心

ひとつずつ守ってる

だから だから

僕は

手の届かない窓の向こう

君の世界に涙が降る

その雨を

止める力はないけれど

僕は

傘をさすよ

そしたら雨は

ほら 君が笑った

この窓がきこえてる

☆優良賞受賞作品

恩返し

結城中学校一年 永塚 晴奈

限りなく広がる大空がある星に

生き物がかけめぐっている大地のある星に

今、わたしたちは生きついで

そして、わたしたちは

この星にある大切なものを見つけてる

ながなが見つけからならいけれど

くっけくっけなわけだよ

わたしたちは

この大空に見守られて

この大地に支えられて

今も大切なものを

見つけている

この大空と大地に

恩返しするんだよ

芽

結城東中学校一年 栗原 明日香

わたし達は今、小さな小さな「芽」

風にふかれたり雨にうたれたり

つらい時もあるけれど

悲しさをうれしさを

栄養にしてますよ

太陽に向かっているんだよ。

悲しい時は泣いて

楽しい時うれしい時は笑って

自分を少しずつ育ててくよ

いつか自分にとって

一番の花になれるように

どんな花でも良い

自分の花を咲かせられるように。

☆優良賞受賞作品

いねむり

結城東中学校一年 長瀬 賀子

いつのまにか

まぶたの上で

見えない小さなナマケモノが

居眠りを始めて

その重たいたえられなくなったまぶたが

ゆすぶゆすぶおしおしおし

そっとなん

頭の上にもナマケモノ

頭もだんだん下がってへ

気がつくへん

ノートのぼやけた文字が

目の前に広がっていた

気がつくへん

次の授業が始まっていた

がんばる「絆」

結城東中学校二年 平田 拓也

運動会がはじまって

みんなの手にペンで書かれた

「絆」の一文字

後で書いてはいけないと先生に言われ

帰ってから手を洗った

だけれど消えずに残っていて

4日間は消えなかった。

がんに残った「絆」のよひひ

ずっと残る絆をつなぎたい。

今はもう消えてしまったけれど

左手の甲を見るひ

残っているよひひな気がして

思い出す運動会

☆優良賞受賞作品

じゅん

結城東中学校一年 村井 優花

大きなじゅん

小さなじゅん

虫喰じゅん

落し葉のトド

羽音

まゆみじゅん

じがたじゅん

いんじゅん

ベレー帽がぶつ

夢はマンガ家

卵

結城東中学校三年 横嶋 笹白

私の中に 卵がたくさなある

大きいの 小さいの 丸いの 細長いの

じつじつだの やわらかいの

白いの 青いの 黄色の 赤の

暖めたらどねも良いものが出てきそうだけど
どねを大切に育てればいいのか

はやへーしを見つけたためには

「フトリみたいに大きな声で呼ばはいいのか

インコみたいに人のまねをすればいいのか

よんぶんからなごはじ

きつと私のひななる途中であきらめ

内側からじつじつと力強くなぐをぶらぶら

出てきてくれるはずだから

今はこの

一面この世界はただただひななるの自由なうへんをながめようとするよ。この世界は。

☆優良賞受賞作品

空の気持ち

結城南中学校二年 石黒 玲奈

空にも私たちが同じ様に
感情があります

泣いて

悩んで

怒って

笑って

雨が降ってこぼれ
空は泣いています

悲しいことがあったのでしよう

悔しいことがあったのでしよう

曇りのとき

空は悩んでいます

何か迷っているのでしょうか

困ったことがあったのでしよう

空は不安の気持ちでいっぱいなんです

雷のとき

空は怒っています

許せなことがあったのでしよう

晴れてこぼれ
空は笑っています

楽しいことがあったのでしよう

嬉しいことがあったのでしよう

おもしろいことがあったのでしよう

晴れていると空も笑顔だし

みんなも笑顔になる

私の一番好きな天気です

今日もみんな笑顔です

後悔

結城南中学校三年 大崎 志帆

「お疲れ様」が痛いのは

本気で好きだったから

終止符打たれてから

気付いてしまった恋は

もう恋とは呼べない

ただの後悔

「お疲れ様」が痛いのは

納得がいかないから

終止符打たれてから

気付いてしまった部活動は

もう部活動とは呼べない

ただの後悔

ああ

今日もまた後悔

☆優良賞受賞作品

虹

結城南中学校三年 多並 千尋

雨上がりのあざむ

七色のアーチがまちなをおおった

人間の手では絶対に真似のできな

あの美しい彩の

わたしは七色のアーチに心をこぼれた

あのアーチをいつまでみたら

もっと美しい景色がみたく

その思いつくやうな近づいてくる

ふん気が付くと

あれ アーチがなご

七色のアーチは近づくと消えてく

遠ざかる消えてく

ここからなごむちよひささだ

七色のアーチは私の気持ちをなご

美しい彩の輝きを

雨

結城第一高等学校一年 鶴見 典子

外の景色をみる雨が降っていた

他の同い年の学生達は何をしているんだろう

僕はまたパソコンの画面にうつされた

文字だらけの情報を読みつけた

つづいてつづいてつづいて

雨はぼひら、ぼひらと弱くなってきた

みんなは何をいつするんだろう

その思いつく意味がなごの画面を見た

文字の羅列はまごの雨のやみじく

僕をこころに分かたなごを

☆優良賞受賞作品

アゲハチョウ

結城第二高等学校一年 落合 春香

ゆらり、ふわり

空を舞うアゲハチョウ

とても輝いていて

—キレイ—

けどそれは、あの頃があったから

キレイなんだよ。

まだアゲハチョウが幼虫の時

人間にきもちわるいと言われ、

人間のひまつぶしにあそばれ、

人間の気まぐれで仲間がふみつぶされ、

何回も泣きそうになった。

けど逆に負けない気持ちが生まれたんだ。

誰にも見つからないよう

ひっそりとサナギになり、

すっとすっと一人ぼっちでたえてた。

やがて桜が咲く季節。

がまんする時は終わり

自由になった。

アゲハチョウに生まれ変わったんだ。

あんなにひどかった人間も優しくなり、

「キレイ」と言われ続けるようになった

姿が変わると態度も変わる人間。

そんな人間を見下しながらも

アゲハチョウは舞い続ける。



センダンの木



花と葉



花

『新川和江先生の詩を読む』

○木かげ

新川先生の故郷縮川小学校のセンドンの木の下（木かげ）で、いつも本をお読みになっていたというエピソード、そして、先生の多くの詩を読みたい、学びたいという思いからこの会ができたということです。

○ボイスフレンド

ボイスフレンドは、朗読ボランティアサークルとして平成四年に、市の広報や書籍などを録音して視覚障害者へお送りするなどを目的につくられたとのことです。なお今回の詩の朗読は、今回が初めての挑戦だそうです。

○センドンの木の集い

詩を書く人、書かない人、どなたでも心を開いての語りの中で、豊かなひと時をご一緒にどうぞという先生のお心と先生のセンドンの木への思い出を大切に全国から先生をお慕いしている人たちでつくられたことです。

【詩の名】

・水

（新川和江全詩集 二七二ページ）

・韻ぎ合詞

（東京新聞掲載）

・きぼうだらけのじじい

（新川和江全詩集 三五五ページ）

【詩の名】

・チヨークとこくばん

（新川和江全詩集 五六七ページ）

・夢のなかで

（新川和江全詩集 二七九ページ）

・螢ランプ

（新川和江全詩集 五〇四ページ）

【詩の名】

・赤ちゃんに寄す

（新川和江全詩集 一一一ページ）

・やがて五月

（新川和江全詩集 二〇〇ページ）

・海よ

（新選新川和江詩集 一〇八ページ）

・わたしを束ねないで

（新川和江全詩集 一六七ページ）

メ 毛

A series of horizontal dotted lines for handwriting practice, consisting of 20 lines.

花の名

新川和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじ



花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が

やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげににっこりするよひに

わたしは発音はつおんするのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして さくら

